

XIII 令和2年度 東京都立美原高等学校 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立美原高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(庶務主任兼務)=事務局長、庶務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当、生活指導担当、生活指導保健担当、3年次主任、2年次主任)、主任教諭(進路指導主任、1年次主任) 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(大学准教授)、地域学習塾長、大田区教育委員会事務局代表、PTA会長、PTA副会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、近隣自治会副会長、 計9名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 第1回 令和2年6月15日（月）から6月30日（火）まで 内部委員10名、協議委員9名
 新型コロナウイルス感染症拡大のため書面による開催
 協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、前年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換
 第2回 令和2年11月30日（月）から12月11日（金）まで 内部委員10名、協議委員9名
 新型コロナウイルス感染症拡大のため書面による開催
 学校評価アンケート内容の検討、協議
 第3回 令和3年2月19日（金）から2月26日（金）まで 内部委員10名、協議委員9名
 新型コロナウイルス感染症拡大のため書面による開催
 学校評価アンケート結果の報告及び学校運営に関する提言、協議
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 第1回 令和2年11月30日（月）から12月11日（金）まで 内部委員1名、協議委員2名
 新型コロナウイルス感染症拡大のため書面による開催
 学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
 第2回 令和3年2月19日（金）から2月26日（金）まで 内部委員1名、協議委員2名
 新型コロナウイルス感染症拡大のため書面による開催
 アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・ 12月 全校生徒	対象：693人	回収：693人	回収率：100%
・ 1月 保護者全員	対象：693人	回収：284人	回収率：41%
・ 1月 地域・住民	対象：100人	回収：77人	回収率：77%
・ 1月 教職員	対象：42人	回収：36人	回収率：86%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフ・ワーク・バランスの推進、施設・設備等
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・8割以上の生徒及び保護者が本校に入学して良かったと思っている。
 - ・生徒は概ね本校の教員の授業について満足しているが、約2割の生徒は、内容は分かりやすく自分が理解できるかとの質問に否定的で、教職員の回答と乖離している。
 - ・約3割の保護者は、教員が教材や教え方に様々な工夫をしているかとの質問に否定的で、教職員の回答（全て肯定的）と大きく乖離している。
 - ・4割近くの保護者は、子どもが自分の進路を見つけることができたと思うかとの質問に否定的で、約3割の保護者は、教員が進路について親身になり、相談にのってくれると考えていない。
 - ・地域住民の約4割が、生徒の登下校における自転車のマナーについての指導が不十分と考えている。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
- ・生徒及び保護者は、概ね本校の教育活動に満足しているが、授業内容やレベル、きめ細かい進路指導等、今後改善しなければならない点が表面化してきた。
 - ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について、生徒及び保護者に対して説明することが必要である。
 - ・ライフ・ワーク・バランスの項目では、6割以上の教職員ができていることに肯定的であった。
 - ・コロナ禍の中、部活動や生徒会活動が制限され、生徒及び保護者の不満が数値に表れている。
 - ・学校の施設・設備について、8割の生徒及び保護者は満足している。
- 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）
- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
- ・学校評価アンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
 - ・教育活動について、学校HPの充実や地域社会への発信方法の工夫が必要であることが分かった。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・近隣住民は、学校での教育活動をより一層知りたいと望んでいることが分かった。
 - ・書面による意見交換も方法の一つだが、会議体により直接声を聴くことも必要である。
 - ・定員割れ状態からの脱却を図るため、全教職員が学校評価を真摯に受け止め、学習指導、進路指導、生活指導等を大きく改善させる必要がある。
- 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）
- (1) 学校運営
- ・コロナ禍の中、学習支援クラウドサービス Classi を活用した連絡方法を一層充実させる。
 - ・学校の教育活動を学校HPや紙媒体等を活用し、より一層周知する必要がある。
 - ・全教職員が学校評価を真摯に受け止め、教育課程の改訂に合わせた抜本的な改革を推進することが、急務である
- (2) 学習指導
- ・朝学習の充実や学習支援クラウドサービスを活用して基礎基本の徹底を図り、自学自習への対応、教科会を中心に更なる教材研究を重ね、分かりやすい授業の推進と生徒の理解度の向上を図る。
- (3) 特別活動
- ・コロナ禍の中、生徒の健康と安全安心を第一に考え、活動方法を模索し自己肯定感の醸成や他者とのコミュニケーション能力の伸長を図る。
- (4) 生活指導
- ・生徒の様々な変容をきっかけにして、家庭状況や友人関係等での軋轢をいち早く察知し、学校一体となった生活指導を組織的に推進する。
- (5) 進路指導
- ・生徒個々の進路実現のため、系統的な進路指導の充実と単位制高校としてのキャリア教育体制を構築していく必要がある。
- (6) 健康・安全
- ・多様な生徒に対応するため、スクールカウンセリングを含めた教育相談体制を充実させる。
- 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合
- (1) 協議委員人数 9人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	3				1	

- 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
- 新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、周知方法について検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。